

Die Eiche

ディ アイヘ

<http://www.jdg-chiba.com>

Japanisch-Deutsche
Gesellschaft der Präfektur
Chiba

〒270-2214 松戸市松飛台556-12
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

2025年度 新規運営体制 広報委員会の活動について 常任理事 本橋 緑

本戸会長のもと、昨年発足した運営委員会における部会体制ですが、その中の一つが広報委員会です。同委員会では、勝見編集長が作成された検討マップ（下図）をベースに、これまでの広報における問題点等を挙げ、今後の情報発信のあり方について整理しています。



当協会では現在Die Eicheやホームページ（HP）、SNSを活用し、広報活動を行い、またコロナ禍以降、運営委員会の打ち合わせや青壮年部の部会等で、オンラインツールzoomを大変便利に利用しています。ちょうど来年は協会創立30周年にあたりますので、記念行事の一つとして、2013年に開設されたHPのリニューアルを考えています。その内容や規模等についてはこれから具体的に検討します。

HPを含めた広報活動において、総括的かつ効率的に改善できるよう見直し作業を行っています。すぐに改善できない点も多々あるかと思ひます。その点については将来への課題として記録に残します。会員の皆様には何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

協会Home Page 改訂

- ・ 顕在課題に関する検討
- ・ 情報内容と情報構造に関する検討

情報インフラ別の検討

- ・ Die Eicheの将来展開
- ・ Facebook, instagramの将来展開

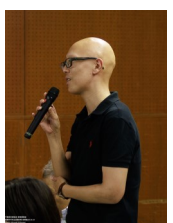
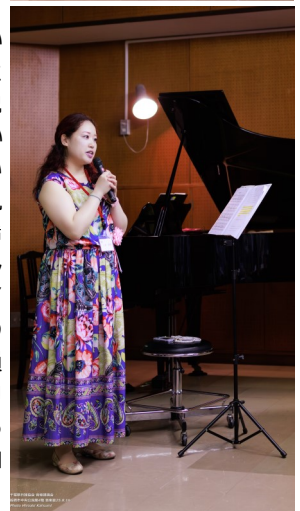
広報全体の将来検討

- ・ 協会設立30周年における将来検討との連携
- ・ 電子化を含めた広報体制の検討

てね」というような、決して嫌味ではないとても proactiveな面であるとか、ドイツの音楽教育では、指導者の指示のもと歌い方を習得するのではなく、「あなたはどう歌いたいのか」という声楽家の創造性に対してアドバイス、指導をする主体性が基本になっている。このような現地体験ならではのお話も大変興味深かったです。セレナーデの文化背景、「私は、この人が好きだ」と街中で住民に聞こえてしまう中での告白が許容されている。今も。まさに相違点。

取り上げられた曲は、イタリア歌曲は、トスティ作曲“Sogno”、彼独特の美しいメロディと男性の女性に対する強い想いが夢にまで出る。しかしその最後の歌詞でその恋は、実ってない切なさで印象的でした。日本歌曲もメロディと日本語の音色美を感じつつ、興味深い説明をなされたのは、日常生活で「愛している」とは直接的に表現するのは極めて少ない文化において漢字「愛」の説明が秀逸。表現は積極的に言葉で愛情を表現することは稀ですが、概念的にはその意味を一字で示しているではありませんかと思いました。更にドイツの愛情表現と形式では、中世ミネザングの伝統を受け継ぐという点も印象的です。韻を踏む、強弱リズム、極力長い文章、直接的な表現は避けるというコンセプトで歌詞が作られるとのこと演奏された R. Strauss 作曲“Zueignung”が紹介されました。

ここで感じたのは、ドイツ歌曲を聴く上で、短歌形式も紹介されましたが、響きとリズムと歌詞の3点の深い理解がないとドイツ歌曲を本質的に理解するのは難しいのかと少し思いました。短歌を素晴らしいと深いレベルで感動するには相応の経験、知識を有するのと同じかと。勿論、歌唱された「献呈」のメロディは好きです。同時にピアノの土屋さんから、ピアノ演奏表現の観点で特徴的な歌唱を紹介。“habe Dank”という歌詞が3回登場するが、3回目の演奏だけ、情熱的に語っている表現が音符にも象徴されているという解説は、とても興味深かったです。



文化・教養活動 音楽講演会に参加報告 常任理事 勝見 浩明



8月16日船橋市中央公民館にて「歌で巡る愛の形 ～イタリア、日本、ドイツ、三者三様の愛情表現～」という切り口での音楽講演会が開催されました。現在の運営委員の運営委員体制（Die Eiche No.151参照）内、文化・教養活動担当の土屋常任理事（ピアニスト）そして会員 土屋実穂さん（声楽家）によるとてもユニークで示唆に富む講演会が行われました。参加者からも多くの質問が寄せられて出席者の方々の会場の雰囲気は盛り上がりしました。当日の出席者数は、40名、満席でした。

どのポイントが魅力的でしたでしょうか。それは、イタリア、日本、ドイツの国別の国民性と歌の関係を各国特徴的な要素を示しながら、国民性につながる歌詞を紹介、その言語の音読を声楽家の土屋さんが綺麗な発音で示され、各国語の響きの魅力を的確に表現されました。同時にお二人とも現地の滞在経験をもとにイタリア人、ドイツ人の表現、行動特性をわかりやすく説明してくださいました。例えば、イタリアの歌い手は、「私が最もうまい、是非、聴い



懇親会/ビール祭り 盛大に行われる

講演会后、“EUROHOUSE”にて懇親会と2年ぶりに実現、協会ビール祭りが行われました。総勢30名の方が参加されました。

坂田常任理事の名コーディネート、ドイツ民謡の合唱、吉田さんと土屋さんのサプライズ重唱など会場は大盛り上がりしました。

心地よい雰囲気は、言語不要。画像でお伝えします（常任理事：勝見 浩明）



「デュッセルドルフの夕べ」ほか

理事 笹生 健司



2025年6月16日、デュッセルドルフ市、ノルトライン・ヴェストファーレン州、メッセ・デュッセルドルフ主催による「デュッセルドルフの夕べ」が3年ぶりに東京のホテルニューオータニで開催されました。シュテファン・ケラー・デュッセルドルフ市長ら関係者の挨拶ののち、同市と友好都市である千葉県の熊谷俊人知事の乾杯で幕を開けました。会場ではデュッセルドルフから空輸したアルトビール「Zum Schlüssel」が振舞われました。デュッセルドルフ市駐在経験者等の関係者約600人が集まり、千葉県日独協会からも14名の会員が参加して同市との友好を深めました。木戸会長は、ケラー市長やジークムント駐日ドイツ大使に挨拶し、本会の行事等について説明しました。



シュテファン・ケラー市長



デュッセルドルフの夕べ会場



協会からの参加者



昼食会の様子

また、2日後の6月18日には、クリスティアン・ツァオム副市長を代表とする同市使節団（14名）が千葉県を訪問したのに併せ、本会主催による昼食会を「ながら木こりんブルワリー」で開催しました。植松事務局長が会長挨拶を代読し、田園風景が広がるゆったりした雰囲気の中で友好を深めました。昼食会では同ブルワリーで製造したアルトビールを楽しみました。その後一行は海浜幕張にある「友好広場」に移動し、デュッセルドルフ市との交流を記念するマンホール蓋の除幕式を行いました。また、デュッセルドルフ市内の通りを「Chibastraße」（中央駅の北東側）と命名したこともここで披露されました。

第52回日独スポーツ少年団同時交流に参加して

8月3日～12日、第52回日独スポーツ少年団同時交流に通訳として帯同し、団員7名・指導者1名とともに徳島県吉野川市・香川県丸亀市に滞在しました。本事業では日本全国のスポーツ少年団、ドイツ全土のSportjugendに所属する青少年たちが夏の同時期にそれぞれドイツ・日本を訪れ、各地でスポーツ・文化交流、ディスカッション、ホームステイなどを行います。私は2017年から通訳として参加させていただいていますが、訪問先で毎回素敵な出会いと学びがあり、参加するたびに日独交流の素晴らしさを改めて実感します。



（常任理事：竹内 優）

2025ドイツ語講習会開催報告

今年5月31日から毎週土曜夜（計6回）、木戸芳子当協会理事を講師にお迎えし開催されたオンラインドイツ語講習会では、リピーター受講者を含む計8名の方が参加されました。昨年度の講習会で使用したテキスト『Menschen in DACH・トピックス10 2024年度』に収録されているドイツ語圏3ヶ国で近年話題となったトピックスの中から、今回は4課～6課を学び、文法・語彙表現、ドイツ語圏文化・社会に関する以下3つのテーマについて読み解きました：

台所に洗濯機？
ドイツ鉄道・遅延の原因？
スイス・チョコレートの歴史
質問やフィードバックが即座に行える対面授業と比べ、

オンライン授業では双方向のコミュニケーションの難しさが指摘されがちですが、和やかな雰囲気の中、講師と受講者間の活発なやり取りや、講師の方から授業で学んだテーマに関連した資料の配布もあり、今年も大変充実した講習会となりました。ある受講生から「オンラインなら遠くでも自宅で受講出来るこの企画は大変ありがたい。ドイツを良く知る受講者のコメントも聞けて嬉しいです」というご感想をいただきました。最後に、熱心にご指導いただいた木戸芳子講師に深謝申し上げます。（常任理事：本間実里）



青壮年部「音楽聴こう!」活動報告

オペラど素人の私でも感動した「カルメン」

会員 南木 雅弘

青壮年部主催の「音楽聴こう!」に参加し、8月9日（土）、オペラ「カルメン」を観て来ました。その結果は、出演者の美しい歌声、37回の稽古を積み重ねたことから伝わる迫真の演技は元より、観客の皆さんの温かい声援に包まれた素晴らしいオペラを鑑賞することができました。しかも、オペラのど素人の私が、もう一度同じオペラを見たくなり、幕間に再演される同じオペラの入場券を買いに行ったほどでした。今回は東京・町田イタリア歌劇団の公演だったのですが、地元の観客と思しき方々も気合が入り、開幕3時間前には50名程度の方々が入場整理券を求めに集まっておられた程でした。カルメン役の高橋未来子さん、ホセ役の榛葉樹人さんを初め、劇団全員の方々から感動と夢をいただいたオペラでした。



魅力溢れるカルメンを演じたメゾソプラノ

高橋未来子さん（藤原歌劇団）

さて、来たる10月25日（土）には地元船橋（市民文化ホール）でも、同じオペラ「カルメン」*が上演されます。皆さまもぜひ音楽を共（友）に聴きに行かれませんか？

*<https://www.city.funabashi.lg.jp/event/concert/p138221.html>

ドイツの街紹介

斜塔のある村
Gau-Weinheim
会員 南木 雅弘

ひよんなきっかけで「世界一傾いた塔の村」を発見しました。場所は、Gau Weinheim（ガウ ヴァインハイム）というLand Rheinland-Pfalz（ラインラント・プファルツ州）の村で、隣の州なので行ってみることにしました。この村に行くにはローカル線乗り継いで行かなければならず、Das alltägliche Verspätung-Syndrom（常態性遅延症候群）とDas plötzliche Ausfall-Syndrom（突発性運休症候群）が頻繁に起きるDie Deutsche Bahn（ドイツ鉄道）では神に祈る気持ちで出掛けました。今回、ドイツの田舎の風景を皆さまにもお目にかけたくこの地を選びました。

何回か乗り継いで、目的地のWallert-heim（ヴァラートハイム）という駅に着いたのがお昼頃でした。ここからはバスもなく、金もないのでGoogle-Mapを頼りに歩いて行きました。この地方はワインの生産地らしく、ワイン農家と思しき家があちこちに見受けられました。もし、試飲させてくれる農家があれば立ち寄るつもりで期待して歩いて行きましたが、結果的には時期も悪いのかありませんでした。しかし、道中は如何にもドイツの農村地帯という感じで、楽しい遠足になりました。途中、小さな村の中心を通りながら歩くこと約40分、ようやく目的地を示す場所に到着したのですが、あたりを見回しても、「世界一傾いた塔」などありません。今まで斜塔といえば、イタリアのPisa（ピッサ）の斜塔くらいしか見たことがなかったので、世界一と名打つのだから、Pisaの斜塔よりは傾いているだろうと高を括っていたのですが、何と世界一の塔は目の前の教会の塔だと案内板に書いてあるではないですか！！

しかし、どう見てもPisaより傾いているようには見られませんでした。折角ネットで見つけた世界一だったのですが、今回ばかりはドド〜ンと大外れでした。しかし、この沿線は本当に長閑な葡萄畑で、そういった意味では十分に癒される旅ではありました。この近くには、Martin Luther（マルティン・ルター）が喚問されたWorms（ヴォルムス）もあり、帰りはこの街の有名な大聖堂も見て帰ることにしました。



ヴァラートハイム駅



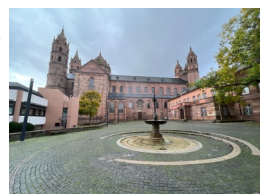
斜塔に向かう途中の街並み



象徴的なドイツの農村部



「世界一？」の塔



近隣のWorms大聖堂

人生におけるドイツとの接点



ドイツと私

ドイツと私 - 青山 彌紀

いまでもこ家でも仕事でもドイツ語やドイツは私にとってなしでは考えられない存在ですが、日本で大学を卒業するまでは、そんな自分は想像もできませんでした。大学でドイツ語を学び、実家に残されたアルバムの添え書きをドイツ語で書いていた祖父は戦死し、スポーツマンでベルリンオリンピックに行きたがっていたこと、中国のドイツ租界で触れたドイツの人や物に憧れていたことを聞かされていたことくらいが唯一の接点でした。大学入学時の外国語選択でも、ドイツ語は、まじめで優秀な、「王道」を歩む人たちが選ぶものと気が引けたのと、中国語なら漢字読めるし単位くらいは取れるだろうという安易な理由で、天安門事件直後でほとんど履修者がいなかった、

(私以外は！?) 奇人変人ばかりの中国語クラスにいたくらいでした。(簡単な言語など当然存在せず、苦労することになりましたが) それでも、子供の頃旧西ドイツ、旧東ドイツで過ごした同級生たちと在学中偶然仲良くなったり、ドイツからの留学生たちと話したりするうちに、バブルの背中を見ながら日本だけで育った当時の私にとっては、彼らの表面的でなく、批判的な思考や生き方に惹かれ、学問的な興味を持っていた生命倫理学の中で英語圏の議論に親しみを持てなかったことも手伝って、ドイツやヨーロッパへの関心を持つようになった気がします。最初に縁があって留学したデンマークでその言語の発音の難解さ(というか自分の耳の悪さ?)に撃沈した後、ドイツのラジオから流れるドイツ語の(デンマーク語に比べると)とてもクリアな響きに、この言語ならいけるかも?と勝手に思ったことも後押しし、ドイツに行きたくて日本で学び残した哲学や倫理を勉強・研究することになりました。16年間のドイツ生活では、語学学校や大学院、学生寮やWG(シェアハウス)から始まり、研究し、家庭を持って子育てをし、大学で学生を教える中で見えたドイツの顔があり、再び日本に帰って外から見たドイツや東京のドイツ大使館で見たドイツ、私にとってのドイツは語りつくせない、色々な顔を見せてくれました。同じ能面を角度を変えてみるとまったく表情が違って見えるように、最近では、世界・社会情勢が激変する中で、ドイツが私に見せる顔が全く違う表情に見えることもあり、これからも私もドイツも世界も、それぞれが変化する中で、新しいドイツの顔を見つけていくんだろうなと思っています。



ご主人様の故郷Mainzでのクリスマスマーケット、ZDFのゆるキャラ君と(筆者の背景)



Fleischwurstを丸ごとパンに挟んで食べるのに驚いている筆者



ドイツビール堪能中!

新入会員紹介 伏木 宏奈

本年の4月に入会させて頂きました伏木宏奈です。

実はドイツには行ったことがなく、大学ときにドイツ語を履修したものの、ロクに勉強もせずに卒業してしまった私なのですが、絵本や児童文学が大好きでミハエル・エンデの「モモ」やグリム童話を読んで育ちました。児童文学をドイツ語で読んでみたい、そんな思いをずっと持っていました。

その話とは別に、母はスイスのベルン生まれで何度かスイスには行きました。

降り立ったチューリッヒはドイツ語、ベルンの公用語の1つもドイツ語で、読めず話せずとても苦労をした思い出があります。

言語や歴史を含め、ドイツのことをもっと勉強したいと思っていたところ、千葉県日独協会の存在を知りました。入会后、ドイツ語初心者講座に参加、青壮年部にも参加させて頂くことが出来て大変嬉しく思っています。

ドイツ関係において初心者ですが、色々と学ばせて頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



南房総白浜の海岸と筆者

今後の予定

■青壮年部懇談会 ドイツにおける動物保護 (8/22開催案内発信)

日時 2025年9月20日 18:30-20:00オンライン

■土屋実穂ソプラノリサイタル 愛の歌 -会員が演奏されます-

日時 2025年9月27日 14:00開演 (13:30開場)

場所 ショパンサロン (京成線 八千代台駅より徒歩約3分)

■市川ドイツデー 2025 (詳細別途ご案内)

日時 2025年10月4日、5日 11:00-16:00

場所 ニッケコルトンプラザ

■ドイツ軍人慰霊祭 (詳細別途ご案内)

日時 2025年11月23日 11:00-11:50

場所 習志野霊園他

■青壮年部懇談会 ドイツ建築・デザイン (詳細別途ご案内)

日時 2025年11月29日 18:30-20:00 オンライン

会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事、バイエルンストゥーベ by ダンケ

編集後記

Die Eiche No.154, 155に続き、本号において2025年度運営委員新規体制の活動を紹介してきました。今年度の活動が着実に前進していると思っています。同時に組織内部の活動にとどまらず、積極的な対外活動も広がりを見せています。今回、お伝えする内容が多く、割愛した記事もあるのですが、その一つに青壮年部における座談会のテーマを従来のドイツ時事とドイツ歴史に加え、ドイツ社会、文化のテーマ切り口でもざくばらんな雰囲気でも会員、会員外の専門家をお招きして懇談する場を設けたいと思っています。奮ってご参加お願いします。勝見